

## フィリピン医療支援チームの活動概要 (その1：6月28日（火）～7月3日（日）)

東日本大震災後から、どのような支援も惜しまないと表明したフィリピン政府は、6月28日（火）から7月13日（水）まで、フィリピン人医師3名からなる医療支援チームを派遣すると決定しました。同チームは、日本人の医師・臨床心理士とともに、大船渡市、陸前高田市等岩手県及び宮城県の被災地を巡回し、在日フィリピン人の御家族を含めた被災者の方々に対する「心のケア」等を目的とする医療支援活動を行うことになりました。

フィリピンからマリア・パス・コラレス医師（団長）、アイダ・ムンカダ医師及びシャロン・トリユンフォ医師が6月28日夜に来日しました。29日には、マヌエル・ロペス在京フィリピン大使主催の歓迎レセプションが開かれ、ロペス大使から、同チームの派遣が被災地の方々にとり有益なものとなることを祈るとの発言がありました。片江外務省南東アジア第二課長はフィリピン政府の協力を深く謝意を表しました。



（在京フィリピン大使館にて。中央はロペス大使。大使の左隣がコラレス団長）

同チームは30日（木）には岩手県盛岡市に入り、岩手県庁、岩手県国

際交流協会、在盛岡フィリピン名誉領事館をそれぞれ訪問し、同チームの滞在に当たってのこれまでの協力に感謝するとともに、より一層の支援をお願いしました。

7月1日（金）には、大船渡市に入り、地域の基幹病院である県立大船渡病院を訪問し、また市内の公民館にて被災された在日フィリピン人とその御家族と面談しました。2日（土）は岩手医科大学附属病院、花巻病院を訪問した後、気仙沼市内の被災者の御自宅にて、また、3日（日）は陸前高田市の町内会館において、被災された在日フィリピン人とその御家族と面談し、この3日間で、合計43名の方々に対して「心のケア」に当たりました。被災者の方々は、フィリピン人医師たちに対して、母国語であるタガログ語で、地震と津波の恐ろしさ、奇跡的に助かった経験、大切な人やものを失った悲しみ、家族と連絡が取れなかった時の不安、震災後の生活の大変さ等を切々と、時に涙ぐみながら語っておられました。



（写真：陸前高田市にて。フィリピン人医師と話すフィリピン人の御家族）